

# 第1学年1組英語科学習指導案

令和3年10月27日第5校時  
指導者 糸魚川市立糸魚川東中学校  
教諭 荒木 俊邦

## 1 研究テーマ

### 即興で伝える力を育成するための指導

～目的・場面・状況に応じて有用な英語表現を探求し、使える生徒の育成～

## 2 研究テーマについて

### (1) 研究テーマ設定の意図

新学習指導要領には「話すこと『発表』」の目標として「ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて述べ合うことができるようにする。」（文部科学省2018）とある。「話すこと」の目標であるが、「聞くこと」や「読むこと」の能力も求められる。これまでの授業を振り返ってみると、即興的に英語で「やり取りすること」ばかりを意識してしまっていた。実際の授業では、帯活動として、なりきり自己紹介、テーマに沿った自己紹介を毎時間行っている。そのため、多くの生徒が自信をもって、生き生きと臆することなく活動に取り組むことができている。しかし、十分なフォーマットが与えられた上に、内容が指定されている上での自己紹介であるため、「ドリル活動」の域を脱していない。また、「何を表現するか（内容）」と「それをどのように英語にするかを生徒が決めて判断する（思考・判断）」場面が設定されていないため、生徒は「学び」を体験できていない。そこで、内容読解の出口活動として簡単なやり取りや発表活動を行う。生徒が深く考え、即興で言語活動ができるよう「目的・場面・状況に応じて有用な英語表現を探求し、使える生徒の育成」をテーマとする。

### (2) 研究テーマに迫るために

#### ① 変化のある繰り返し

既習事項を効果的に活用できるよう、本活動前に既習事項との関連を意識できる課題を提示する。生徒が「どのように英語にするか」判断するときの引き出しを多くすることを目的とする。ただし、フォーマットを与えすぎないように配慮する。

#### ② retellを意識した活動

「即興的」を目指した活動であっても、全てを準備しない状況でのやり取り、もしくは発表は生徒に負担が大きい。キーワードになりうる語をメモさせ、表現する際に英文を再構築させる。

#### ③ 活動の場面設定

「映画の広報係になったつもりで、映画に関心をもってもらえるようにあらすじや登場人物を紹介する」を課題として提示し、どのような表現を使ったらよいか、聞き手が理解できるかを個人で考える場を設定する。

### (3) 研究テーマにかかわる評価

次の観点から評価を行う。

① 例にならって、1分程度の映画の宣伝をすることができる。『知識・技能』

② あらすじや人物を紹介する際に相手の関心を引き出せるような有益な情報を読み取り、簡単な語句や文を用いて伝えることができる。『思考・判断・表現』

### 3 単元と指導計画

#### (1) 単元名

Program 6 The Way to School (Sunshine English Course 1 開隆堂)

#### (2) 単元の目標

- ・ him/herなどの人称代名詞、whyの疑問文やBecause～.の意味や働きを理解し、使うことができる。『知識・技能』
- ・ 既習表現を駆使し、自分の考えをまとめ、映画のあらすじや主人公ジャクソンについて他者関心をもつような紹介を考え、発表することができる。『思考・判断・表現』
- ・ A L Tや仲間の考えに傾聴し、自分の考えを発信することができる。

『思考・判断・表現』

#### (3) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
『知識』 ・ him/herなどの人称代名詞、whyの疑問文やBecause～.の意味や働きを理解している。 『技能』 ・ him/herなどの人称代名詞、whyの疑問文やBecause～.の意味や働きの理解をもとにジャクソンとその家族、ジャクソンの学校へ通う理由について聞き取ったり、書いたりする技能を身に付けている。	・ 日常的な話題や社会的な話題（海外の通学事情についての映画）についての会話文を読んで、要点を捉えている。 ・ 本文中からジャクソンの生き方で感銘を受けた部分を伝えるために情報を選択し、仲間に伝えることができている。また、その理由を伝えることができている。	・ 日常的な話題や社会的な話題（海外の通学事情についての映画）についての会話文を読んで、要点を捉えようとしている。 ・ 本文中からジャクソンの生き方で感銘を受けた部分を伝えるために情報を選択し、仲間に伝えようとしている。また、その理由を伝えようとしている。

#### (4) 単元と生徒

##### ① 単元について

本単元は、片道2時間かけて15キロメートル離れた学校に妹と通学するジャクソンが話題の中心となっている。自分たちが置かれている通学の状況に意識を向けさせながら、安全に学校に通えることの幸せ、学習することの意義を考える機会とさせたい。

##### ② 生徒の実態

元気のあるクラスで、教師の発問への反応も速く、多様な答えが返ってくる。英語学習に対して前向きに取り組む生徒が多い。家庭学習ではオリジナル英作文や英語検定に向けた学習をするなど、英語の学習を意欲的に取り組んでいる生徒もいる。学級内の人間関係は男女の隔てがなく良好であり、ペア学習やグループ学習において、スムーズなやり取りができる。4月より、帯活動で芸能人やアニメのキャラクターになりきって自己紹介（ドリル活動）の次に、テーマに沿って自己紹介（表現活動）を行ってきた。そのため、自信をもって多くの生徒が活動に取り組むことができている。しかし、情意フィルターを下げる目的で、教師側がフォーマットを用意してからの活動が多かったため、初めて取り組むことには億劫であったり、条件や状況に応じて表現を選択する力が未成熟であったりする。本研修を通して、生徒がこれまで学習したことや、経験したことを結び付けて考え、目的・場面・状況に応じた適切な表現に気付き、自信をもって表現できる姿を期待している。

(5) 単元の指導計画と評価計画 (全6時間、本時5 / 6時間)

次 (時数)	学習内容	学習活動	主な評価規準と方法
1 (2)	<p>(1時)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人称代名詞目的格の意味や用法を理解し、表現する技能を身に付ける。</li> <li>新出語句の確認</li> </ul> <p>(2時)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>whyの疑問文、Because～.などの意味や働きを理解し、表現する技能を身に付ける。</li> <li>新出語句の確認</li> </ul>	<p>◎登場人物や好きなキャラクターの家族について聞き取ったり、書いたりしよう。</p> <p>◎好きな映画やその理由について聞き取ったり、書いたりしよう。</p>	<p><b>知・技</b>登場人物や好きなキャラクターについてやり取りし、その人を知っているか、好きかどうかなどを質問したり、感想を言ったりすることができる。また、やり取りで使った表現をノートに書くことができる。</p> <p><b>【観察】</b> 及び <b>【ノート記述分析】</b></p> <p><b>知・技</b>好きな映画やその理由についてやり取りしたり、自分の考えに理由を付けたしたりすることができる。また、やり取りで使った表現をノートに書くことができる。</p> <p><b>【観察】</b> 及び <b>【ノート記述分析】</b></p>
2 (2)	<p>(3～4時)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本文の内容読解・音読練習をする。</li> <li>新出語句の確認</li> </ul>	<p>◎写真の少年は誰ですか。本文を読んで、情報を引き出そう。</p> <p>◎ケニアの通学事情やジャクソンがなぜ学校に通うのか読み取ろう。自分たちと比べよう。</p>	<p><b>知・技</b>海外の通学事情について知るために、映画についての会話文を読み、要点を捉えている。</p> <p><b>【レポート記述分析】</b></p>
3 (1)	<p>(5時)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本文を読み、必要な情報を読み取る。</li> <li>リテリング</li> </ul>	<p>◎映画の広報係として、映画を思わず「面白い」と思わせるような紹介文を考えてみよう</p>	<p><b>思・判・表</b>映画のあらすじや登場人物を1分程度で説明している。</p> <p><b>【観察】</b></p> <p><b>態度</b>どのように表現したら、相手に興味をもってもらえるかを考え、よい発表にしようとして工夫している。</p> <p><b>【レポート記述分析】</b></p>
4 (1)	<p>(6時)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人物紹介</li> </ul>	<p>◎自分の好きな人や物について紹介しよう。</p>	<p><b>思・判・表</b>相手に分かってもらえるように有名人や好きな人物について伝え合っている。聞き手は発表を聞いて質問をすることができる。</p> <p><b>【観察】</b></p> <p><b>態度</b>どのように表現したら、相手に興味をもってもらえるかを考え、好きな理由を付け加えるなど、よりよい発表を目指し、工夫している。</p> <p><b>【レポート記述分析】</b></p>

## 4 本時の展開

### (1) ねらい

- ・映画の内容や登場人物について、読んだ題材を踏まえ、即興的に話すことができる。

『思考・判断・表現』

- ・どのように表現したら、相手に関心をもってもらえるかを考え、よい発表にしようと工夫している。

『主体的に学習に取り組む態度』

### (2) 展開の構想

本単元では、片道2時間かけて15キロメートル離れた学校に妹と通学するジャクソンが話題の中心となっている。本時では、その内容を読んだうえで、映画の広報係になったつもりで、映画のあらすじや主人公ジャクソンの人物紹介を考え、魅力を伝え合うことを目標とする。

はじめに（なりきり）自己紹介で、「英語を使って自分のことや考えを相手に伝える楽しさや意欲」を喚起させる。その後、新出構文の復習やなりきり他者紹介を行い、第三者について説明するときの表現を導入する。本文を読んで、日本とケニアの通学事情を比較することで、同世代であっても置かれている状況が違うことを知り、学校へ行くことの意義について再確認する。それぞれの生徒にとって自分にとって印象に残ったり、感銘を受けたりした部分について、意見交換できるようにする。

### (3) 展開

時間 (分)	・学習活動	○教師の働き掛け ●予想される生徒の反応	□評価 ○支援 ◇留意点
15分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつ</li> <li>・なりきり自己紹介 有名人になりきって自己紹介をする。</li> <li>・自己紹介</li> <li>・なりきり他者紹介 有名人になりきって、自己紹介と家族紹介を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○Student teacherが前に出て、あいさつをするように指示する。あいさつ後、全体に2つ質問をさせる。</li> <li>○「なりきり自己紹介」をスクリーンに提示し、発話させる。</li> <li>○「なりきり自己紹介」の表現をベースに自己紹介をさせる。</li> <li>●表現が思い浮かばない生徒は、近くの生徒に聞く。</li> <li>●代表生徒に対して、相槌をうつ。</li> <li>○「なりきり他者紹介」を提示し、練習させる。</li> <li>○まとめとして、適切な表現を選ばせ、対話を完成させる。</li> <li>●表現が思い浮かばない生徒は、近くの生徒に聞く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○明るく、元気に、前向きにスピーキング活動できるような雰囲気をつくる。</li> <li>○スクリーンに「なりきり自己紹介」の題材を提示する</li> <li>○最後に行われる自己表現活動に自信をもって取り組めるように「変化のある繰り返しの場」を設定する。</li> <li>□互いにアイコンタクトやリアクションをしながら、英語のみで自己紹介や他者紹介をすることができる。（知識・技能）</li> </ul> <p>【観察】</p>
30分		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">                     思わず「見たい」と思わせる映画紹介をしてみよう。                 </div>	
	・本時の目標を確認	○目的・場面・状況が明確になる	○場面の設定はするが、

	<p>する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒と教師でやり取りをしながら、<b>Program 6</b>の復習を行う。</li> <li>・ペアで本文の内容について確認する。</li> <li>・本文を読みながら、ポイントとなる箇所を抽出し、メモを作成させる。</li> <li>・音読練習をする。</li> <li>・複数回異なるペアでロールプレイをする。</li> <li>・書き起こし（個）</li> </ul>	<p>ような発問をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○閉本した状態で、教師による <b>Show and Tell</b>を聞き理解を図る。</li> <li>○あらすじを捉えることができる「問い」を与え、内容を思い出させる。</li> <li>○本文から、自分にとって必要な情報を読み取らせ、抽出させる。</li> <li>●登場人物の魅力にフォーカスした表現を抽出している。</li> <li>●映画のあらすじにフォーカスした表現を抽出している。</li> <li>○映画紹介の準備活動として、教科書の音読をさせる。</li> <li>○写真を見せながら、映画の魅力を英語で伝えさせる。</li> <li>●メモをもとに、登場人物やあらすじにフォーカスした映画紹介をしている。</li> <li>●メモをもとに、対話形式で、自分の経験を交えながら、映画紹介をしている。</li> <li>●英語が苦手な生徒は、教科書の抽出箇所を音読している。</li> <li>○ワークシートに活動で使った英文を書き起こさせる。</li> </ul>	<p>「～を使って」のような表現の指定はしない。相手の関心を引くような映画紹介になっていればよしとする。</p> <p>◇苦手な生徒も、この導入である程度内容読解ができるようにペアで確認する時間を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○映画の魅力を伝える際に、自分が伝えたいと思う箇所を探させる。</li> <li>○ペアで分からないところを確認させる。</li> </ul> <p>◇ループリックを与え、自分でレベルに応じて挑戦できるようにする。</p> <p>◇相手を変え、何度も繰り返し、自信をもって取り組めるようにする。参考になる表現を取り入れてもよしとする。</p> <p>□1分程度で、題材の魅力を聞き手に伝え、関心を引くことができている。 (思考・判断・表現) <b>【観察】</b></p>
5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本日の授業の振り返りを行う。 (個)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○振り返りシートに、自分の発話した英文や相手の関心を引くためにした工夫を記述させる。活動全体の感想を記述させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□どのように表現したら、相手に関心をもってもらえるかを考え、よい発表にしようと工夫している。(主体的に学習に取り組む態度) <b>【レポート記述分析】</b></li> </ul>

#### (4) 評価

- ① 1分程度の映画の宣伝をすることができている。(思考・判断・表現：観察)
- ② 映画の内容や登場人物について、読んだ題材を踏まえ、即興的に話したり、相手の関心を引いたりするための工夫をしている。

(主体的に学習に取り組む態度：観察、振り返りシート)

#### 生徒の自己及び他者評価の観点

- ① 相手の顔を見ながら、②写真を指差し、③教科書の英文を活用して、④1分程度の映画紹介をしている。
  - A 評価の観点①～④のうち、3つ以上できている
  - B 評価の観点①～④のうち、2つできている。
  - C 評価の観点①～④のうち、どれもできていない。

### 5 実践を振り返って

#### (1) 指導の実践

- ① 変化のある繰り返し

「①なりきり自己紹介(図1)→②自己紹介(図2)→③なりきり他者紹介(図3)→④教科書本文を使つての映画紹介」というように、変化をつけて「聞き手に何かを紹介するときの表現」を定着させるための活動を繰り返し仕組んだ。④は実施できなかったが、普段の授業でも仕組んでいるため、多くの生徒がテーマに沿って英語で伝えることができた。

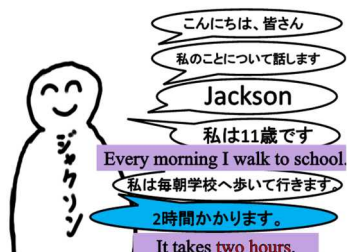


図1 ①で使った資料



図2 ②で使った資料と活動の様子



図3 ③で使った資料

- ② 本文の内容読解から表現活動に向けて

教科書本文のあらすじを捉えられるよう、題材に関する写真や映像を見せながら教師がモデルとなるリテリングを行い、Program 6-1、2の内容を提示した。教科書の黙読、英問英問での内容確認を行うなど題材への理解が深まるよう指導した(図4)。深読み用の発問「本文を読んで“wow”と思ったところを探し、線を引こう」でリテリングを行う際に有用な表現を抽出させた。最後に、自信をもって抽出した表現を言えるように音読を行った。文字と音声の一体化が不十分であり、リテリングを行っても課題達成ができないと判断したため音読指導に時間を割き、表現活動を次回に持ち越した。

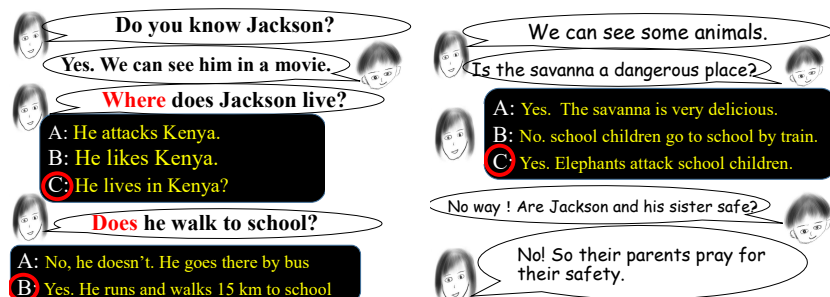


図4 内容読解で使用したプレゼン資料(一部)

教科書の本文を活用しながら  
日本語を介さずに理解度を確認  
することを目指した。

## (2) 研究テーマに関わって

後日、内容読解後の出口活動としてリテリング（ケンになりかわり、聞き手が思わず見たいと思うような映画を紹介しよう）を行った。活動はペアを変え、4回行った。他者評価は毎回、自己評価は最終の4回目に行った（図5）。そのため活動に対する自己評価は20名中20名がB以上となった。しかし、リテリングはモノログ形式のため「1分間発話し続ける」ことに困難を感じるペアが見られた。先述の評価の観点以外に意向を相手に伝えるための方略とし、「速度の変化・間」、「ジェスチャー」、「繰り返し」などを与え、生徒に選ばせてから、活動に入った。その日の振り返りでは、

「方略を駆使しながら、読み取ったことを聞き手に分かりやすく伝えようとした」や、「今後のパフォーマンステストでも実践したい」等の肯定的な記述が見られた。活動の様子としては、「間」や「速度変化」「ジェスチャー」を意識して行っている生徒が多く見られた。聞き手は、話し手に対して、「うなずき」ながら、聞いていた。今後は、うなずきだけでなく、自然と英語で相づちを打てるようなアクティブリスナーも育成していきたい。

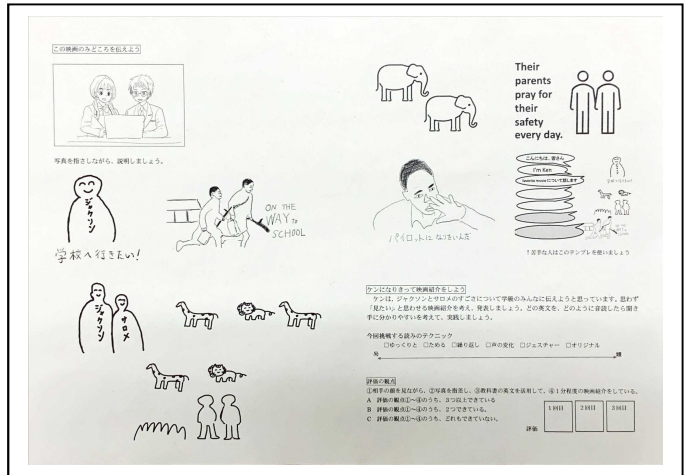


図5 リテリング用ワークシート

## (3) 今後の課題

内容読解の出口活動として、「読んで感じたことをリテリングの形で伝え合う」を設定した。しかし、初見の題材を用いて表現活動まで行うことは生徒に過度な負担がかかること、「読んで分かったことを英語で伝え合う」をするためには十分な準備と時間を要することが分かった。実際、単元の指導計画では全6時間（そのうち内容読解は3時間設定）としたがpre reading（導入）で2時間、while reading（理解・音読）で2時間、post reading（リテリングや書き起こし）で2時間とするなど十分な時間を確保したい。また、リテリングで終わるのではなく、小グループでの「日本とケニアの通学事情」や「学ぶことの意義」など社会的な題材に関するディスカッションに繋げていくなど「読んで何を考えたか」を双方向で伝え合う活動を仕組んでいきたい。

## 参考文献

文部科学省(2018).『中学校学習指導要領解説 外国語編』 東京：開隆堂出版株式会社